

# 2024 FEBRUARY

住み慣れた土地で 生き生きとした暮らし

# 和

vol.  
29

DAI2 NARITA  
MEMORIAL  
HOSPITAL



## 看護研究学会

看護師 吉田真理 打桐佳依

令和6年2月10日に成田記念病院にて「第38回看護研究学会 新たな時代への挑戦～みんなでつくる看護～」が開かれました。当院からも患者様、ご家族様のご理解の下、日々の臨床の中で挑戦してきた内容にて「回復期リハビリテーション病棟における看護師の栄養管理の実践～患者の『口から食べたい』思いを支える～」というテーマで発表する機会を頂きました。超高齢社会の現在、入院患者様の多くに低栄養などの栄養障害を認めます。リハビリテーション治療で高い効果をあげるために、土台となる身体作りが肝心です。

当院では患者様、ご家族様の思いに寄り添い、多職種で栄養管理を実践しています。栄養状態が改善し、日常生活動作が向上することで、住み慣れた地域への復帰を支援できるよう、今後も臨床業務に邁進していく次第です。



## 公開講座

理学療法士 中村勇太 作業療法士 齋藤英彰

昨年11月に豊橋創造大学で地域の方に毎日健康を過ごすために学ぶ公開講座で講演しました。昨年5月に新型コロナウイルスが第5類に分類され、今までのように外出する機会が増えてきたと思います。今回は「元の生活を取り戻そう～コロナ第5類を迎えて～」をテーマにアフターコロナを健康に過ごす為のポイントについて講演しました。

の立ち上がりやウォーキング（散歩）などで効果を得る事が出来ます。大切なことは日々の生活で継続して行うことです。皆さんも自分に合った方法で無理をせずに運動を継続して行うことを目標に実践してみてください。

外出する機会が減ると身体には様々な影響があります。自宅の中での生活では十分に身体を動かす事は出来ないため、体力が低下してしまい足腰が弱くなってしまいます。また、人と接する機会が減り記憶力が低下してしまうこともあります。そうした事が続くと「フレイル」という状態になる可能性があります。フレイルとは加齢によって心身が老い衰え、社会との繋がりが減少しておこる状態をいいます。こうした状態から今までと同じような生活に戻るためには適度な運動が必要です。特別な運動は必要ではなく、椅子から

